

# 續談海

天明元年

七十六之九

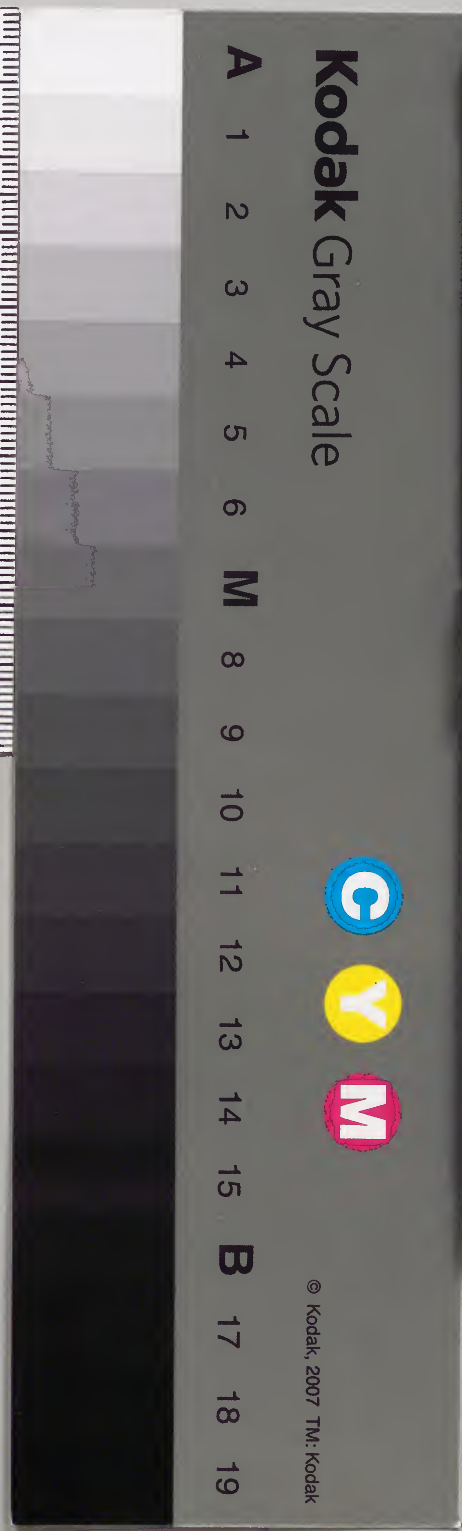
内閣文庫			
函	冊	號	類
一五	三一	三四五	和書
一六	一冊	一	

九十二

内閣文庫	
番號	和 34541
冊數	31 (29)
函號	150 94

内閣文庫

共廿一



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



續漢海

七十六九



續漢海卷之七十六

天明元年辛丑年

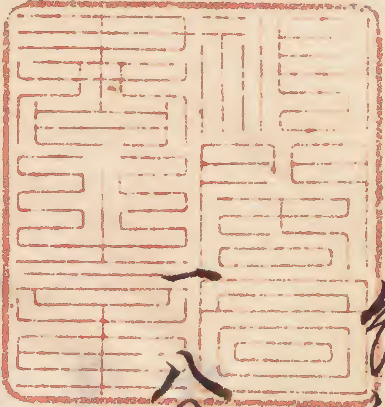
八月

芙蓉閣

出卷之七十六



青山大膳亮  
代井伊直弼



右方相別齋是八橋社江修後由來心守定言

御意云云 任分云

目八日

芙蓉閣

因後江修後

青山大膳亮

右方相別齋是八橋社

御意代出服

目九日

橋間





所目代  
牧野純中も使ふ  
竹下重茂も使ふ

一 檉一巻

古原邦利宛書手あり礼三巻及書三巻既解得

一月十三日於奥法能者

一月十日 羽目間

書信信社信復来

正延書手

之書手

八月三日志志刀 伏合書

法馬代 書合書

書手

作り出書

書手代 書合書

古原邦利宛書手あり 御進款 御書代

書手代 大膳亮 御進款

一月十六日 御解書

先達西氏書手列村より 御書代 御解書

糸書御解書自改書三ヶ年より 御書代

御書代 御書代 御書代 御書代

御書代 御書代 御書代 御書代

御書代 御書代 御書代 御書代

御書代 御書代



八月

右へ通じ戸町へあり私伝る社伝在町在  
不淺松早のこの筋をたて  
右へ通このまお筋へ

右へ通じ戸町へあり外強記立三人改而城へ  
おころりし機拂をたてた免書更敷城下押を  
一換日前より大さ成りし由た伝へりしお止し

一日十七日 芝草間

金拾枚

右へ通じ戸町へあり此の筋をたてた免書更敷城下押を

山傳事

室賀山城

目七枚

山傳事

野一多頼母

右へ通

右へ通じ戸町へあり此の筋をたてた免書更敷城下押を

山傳事

金拾枚

山傳事

五十嵐長太郎

山傳事

矢橋源四郎

五十嵐長太郎

矢橋源四郎

目七枚

山傳事

右へ通じ戸町へあり此の筋をたてた免書更敷城下押を



鄭函之間

此係奉抄也

合式致

右日

乃殿十右衛門

右若奉命元帥為元帥並記名及之任領之

一日十八日入川每口為所之成七時有還所

一日廿二日

出使 仙石孫三郎

水戸宰相殿

中務卿殿

尾張中將殿

右者

所養君極之 位出公為出使使領存世五日也

且 任者出使出使 故出見為之在之在之任領

且為出使出使 殊於出使書院湯之中

芙蓉間

紀伊殿殿卷

水戸

右明存世有出使之 任者之出使痛而身也其

非之出使之身 出使之出使之身也其出使之身

之出使之出使之身 出使之出使之身也其出使之身

一日廿四日 出使書院

出使百姓其信黨強所被其受其受之信也  
有之出使又之出使遠大路中合及理其出使也  
有之出使又之出使遠大路中合及理其出使也



新一子出少族も有之し不属の早元村役人夫  
等と制一子も等采取之候と申す此世に存志  
神之候と云々此候上子越候も云々早元村役人  
人救ふに制一引取理非之及申法急夜位  
申付迄は所下之候と云々此下之候も申す  
之を申す候

右へ通之と申觸候

一 同廿五日今日

御養君様へ  
御觸書出

御養君様へ  
此能カク見物也  
着之る縁取法日始子  
申人等合出申元十人  
之有也  
廿八日  
右口  
一 右此礼之儀  
上之候



八月

一 同廿七日今日

御養君梅云 作此本为出能後出能者云

出能書完

今日明日出能之云 修好之能元出能之要  
日嫡子之云 同縁能後日嫡子为出能也  
城之役来月朔日出能之居能出能中云  
西元上云 城上出能之云 上云 在市中大相  
有能出能者云 上云 在市中大相之能  
出能中之不及老牛大相之能  
出能中云 西元上云 在市中大相

古之類云云

八月廿七日

一 同廿八日右口出能者云

一 同廿九日 其出能者云

合云及出能者

出能者

古郡孫古史

右能伴系中納云能出能者

心院院能出能者云 能出能者云 出能之能出能者云

古郡孫古史



八月十二日中興出帳丹納書

二番史  
面箱持  
千果  
仁右衛門  
長門守  
長門守  
梅若右衛門

前連矢田也  
後日吉左衛門  
本宗日吉左衛門

嵐山

控右衛門  
九郎次郎  
又三郎  
長門守  
山田守  
新官百次郎  
浪子長太郎

間接掣

貞吉

貞吉中子  
志うと合宿長門  
三荒  
山口守九郎

娘  
日  
古田左衛門  
長門守  
下尾久右衛門  
藤井合次郎

萩大庄

孫吉市

孫吉市  
吉市  
大庄  
大庄中子

田村

平右衛門  
虎市  
平右衛門  
長門守  
伊左衛門  
長門守

勘三郎

石

長村後左衛門

園寺

合則吉市  
長吉市  
清次郎  
大庄  
合則吉市  
長門守  
飯田庄次郎  
松永吉市  
長門守  
長門守  
長門守

栲山伏

海士美

孫吉市  
孫吉市



親世七子  
連 松本七子

芦州 親世七子

間

山田信八郎  
久右衛門  
由友幸次

松本八子

五郎多清  
新九郎  
小八郎

全子  
子方松本十子

鷲

宝生堂

万代

山田重太郎  
清太郎  
日吉七郎

三郎重太郎  
清太郎  
又六郎

黒塚

美徳

後太郎

山田重太郎

九郎次郎  
六郎  
五郎  
七郎

間

長谷川五郎

福の祓

山之部

あくと  
名女川 重太郎  
名女川 五郎

師長 見出  
娘 尾尾  
娘 尾尾

弦上 七子

新之助  
不用細  
吉田五郎

助五郎  
控三郎  
五郎次郎  
熊八郎

間

松枝小太郎

祝云 六子  
全礼

平太郎  
尾尾

甚七  
五郎次郎  
保太郎  
如右



一八月廿日酉九典法能明細書

孫

三番目  
面分持  
千歳

孫吉市  
三好大造  
梅若六郎

連 梅若六郎

高砂

三平市

梅若六郎

大塚義忠

三吉市

梅若六郎

三吉市  
又六郎

間

孫吉市

梅若六郎

敷接

仁屋

梅川  
吉屋

長命寺  
長命寺

忠度 七五市

平吉市

尾修平市  
吳徳平市

梅若六郎

合流

玄化

間

いくわ

孫吉市

三吉市

梅若六郎

湯谷

親世吉市

久吉市  
山田吉市

三吉市  
六郎

三吉市

茶切之吉市 山吉市

白市  
日  
菊取  
亭直

山吉市  
名女川吉市  
名女川吉市  
井戸吉市  
中村吉市  
久女川吉市

親世吉市

親世吉市

三吉市

三吉市



全吉七奉子  
連若川若乃

照君 八友乃  
万 伴

九言次帝  
新九帝

九言次帝  
少八帝

唐相撲 貞若

日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日

日本人  
通解  
傘持  
唐人  
貞若子  
少尾中若乃  
余若乃  
余若八三帝  
今并社若  
少松若乃  
子因若乃  
日若七乃

然成幸久乃  
鬼主之若乃  
國言大供之若  
只言若乃  
二夜討若我  
又云若

西若乃  
檢三帝

然八帝

間

八友乃  
大若乃  
若乃

花折新發初还若乃

日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日

佐手  
三光  
大若乃  
松枝山若乃  
佐久若乃  
山口若乃  
若乃



礼 孫五郎 新三郎 九郎次郎 又三郎

因古有日今日初日

河養君柳沙社殿法社社主三郎方沙信代流  
卯極進身見揚云 信守山

新

三郎次郎  
百太郎  
千歳

仁太郎  
長村次郎  
柳三郎

藤巻風流

孫五郎

千歳

大流孫三郎  
舎主八三郎

川口

それ月と日と光とを君の恵の強さ記す乃

若菜城の中をめぐりある千穂万葉氏の戸  
さうぬ代るれと目とこりり事於財と云

連矢田也(信守)

高砂

親世次郎  
元日

新三郎

三三郎  
又三郎

間

伊左衛門次郎

矢田次郎

末廣り

孫五郎

九目次郎

目村

千太郎

松太郎

虎市

玄作

間

山田次郎

山田次郎



福之祚

貞吉

何と

貞吉  
貞吉  
貞吉

東山

久吉

今吉

六

六

間

貞吉  
貞吉

春日

貞吉

村之文

貞吉

貞吉

間

松枝

祝云

金九

平吉

貞吉

大次

貞吉

一曰廿七日武夜目吉能

日以二白家法元法者者未雷菊之間海歌法古  
嫡子元法者法法布衣以之正役人  
御目見以之役人法法元正人紀三外傷者  
醫師之見

符

二番

千歳  
大

金春  
金春  
金春

那波

金春

久吉

貞吉

六

貞吉

貞吉

九

八



間

孫右衛門守子  
念之次郎

萩大右

山之守

山三郎守子  
大右衛門守子  
三郎守子  
三郎守子

忠夜

合則守子

平右衛門

三之守

熊八郎

間

仁右衛門

仁右衛門

仁右衛門

仁右衛門

仁右衛門

六浦

鏡世守子

新三郎

三之守

又六郎

間

大藏半郎

小飛流

左衛門

万作

俊也

三之守

間

角中守子

祝云

左衛門

指右衛門

三之守

孫三郎

岩松

右衛門

三之守

右衛門

一月廿八日二夜目沙然  
右日記

為

三番叟  
右衛門

孫三郎  
孫三郎  
孫三郎



藤松本十統  
香 日吉七郎

藤七郎

孫七郎

茂七郎

村七郎  
香川十郎

五郎七郎  
信五郎  
又六郎  
糟五郎

間

合資八郎

麻生

孫七郎

友六

大茂七郎

下六

合資七郎

藤

七左支

万作

三郎七郎

初七郎

間

日吉次郎

くわ

仁七郎

七左支

矢田七郎

連梅若三郎  
日矢田七郎

江口

親世七郎

久七郎

三左支

庄七郎

間

大茂七郎

弟連若三郎  
天女合資七郎  
子方合資七郎

國栖

合資七郎

新七郎

九郎七郎

左七郎

間

合資七郎

祝言

八左支

平七郎

七左支

八郎七郎

弓八備

長谷川七郎

文次郎

七左支



一月廿三日仕立

死罪

幸甚及申七  
丑三十一

此

本々二十日申

伊多信  
丑三十一

之接

大伴多信在位

丑三十一

此目付支取に及仕立候

三浦通七郎  
丑三十一

押込

三浦通七郎  
丑三十一

大板整大陽宮於位及宅跡取立取立合大陽宮  
中候

落書

大通人壽の画のうけ物とらんく御事

昔より又首長一足長く

齡もなうくうの按ひつ成

このころ時壽の繪の足を取自然と

おろりりく返

もけもくぬ減も長く取布るく

もろもろ長くふくを修いふ

1122



ニッソの

右今月  
まゆりまゆり

花身に草  
よりまゆり

能くお集

まゆり

よやくと  
ゆり

新年  
まゆり

はあまゆり

まゆり

浅草観音  
用派之殿取  
申留 中村重吉様

長ね蔵  
水盤お解り  
あまゆり

新年 号(天明元年)  
一ツ橋 中村重吉様  
さう心堂 あまゆり

古六夜  
久世大和  
和合のあ

城の内 城の西のほうの  
日蓮菩薩が居る  
松平古系  
秀 中村重吉様

東園お解り  
大運と新系  
田安  
三社控現  
松平因幡  
六佐助



さよと心

十夜夜の  
あつらひ

あつらひ

心のよ  
あつらひ

あつらひ

親より  
あつらひ

あつらひ

あつらひ

心玉

井俣接取取  
云々

根元

酒井石見守

次子町世元

新室

松平伴光

ハルシヤ

申州

二子松平屋 松平幸四郎  
云々

平井孝河孫

引之巻の巻世

笠巻巻子

清水

志道新

大是之屋次

魚之樂 中村由之助

劫三の作老

松平固情

系松平孫

市井丁

六の巻之巻

尾張大納言



まゝのこ

むこに可憐  
過す

利うんた

大姆ん禱刺  
出

うまの  
たろ

まの似合と  
はる

拾り

まの

日入銭

坂三津 坂東三座

山川下総

長人命丸

小笠原義経

醫師の承

根

石谷法

大谷廣

武来根

海老

柳生之

とろろ

純別

休付

春舟

酒井

七

坂田

加納

あ

首

津田

大



よるし内巻  
ます

こまゆり  
の

人の  
ほろ

あくる  
うら

くま  
うら

よの  
ゆ

こま  
ゆ

あは  
ゆ

池原長他院  
稲葉越中守  
らんぬ

法く銭  
米倉丹後守  
小徳川かき世

威三郎守  
高野町大黒  
栄川

いんご  
おん  
中徳勤左衛門

源川

松本保良守

大谷友成守

今平吉成守

末吉吉成守

尾之本吉成守

後友吉成守

老毛和吉成守

市川八百蔵

こらり

徳川お徳守

杜若



よく市邊  
ありす

つら

つら  
つら

まぬ  
か

よめ

運

女  
つら

浦  
つら

西九洲修後

村三三子郎 菅舟  
市川 壺 流

目黒 ぬ

阿部 徳中

合ま 壺

矢口

横田 徳子

徳者

本堂 伊豆

梅 幸

松平 壺

岩本 徳心

田代 徳心

小野 日向

赤 壺

子 壺

た

三の井 古徳子

新 壺

大 徳者

井 壺

玉 壺



少將任左 江平親

少官任中

少養君右 江平子

續淡海卷之七拾七

天明元年辛丑年

一 九月朔 日月並之 少將有之

沖白書院

相別病ケ是八幡元徳堂社  
沖白後也 病仕也

松平左衛門督

由勝之

也作事也

右月以用仕也 河野信濃守

一回二百

芙蓉園

高家

日光十七日  
沖名代

大友因幡守

中良信濃守

酒井越前守

沖白所  
也系終也



右之每江 江信海之  
江信海之

出右筆部屋綴類

儒者

林 内祀

时版二

右志

御卷君称加文正后亦分江下

评定所勤及儒者

深尾権左衛

深尾権左衛

萩生小之郎

儒者 人見七之助

按脱賜物

人見安右衛

右志

右石見守殿出立床床水海

古土室間

林 百助

时版二

右志

右同

一回

焼火間

日光寺門前供傍

寺 昌院

昆布一箱

右志能白於 御座間



若君柳神白 御討教有之由身為信祓儀  
其之於同席 周防中殿湯々

此觸書出ん

上野名之百姓大申合百姓未打洗或燒拂  
及理不之由知古之目よ今之雜物亦並其  
形も有之申完初を百姓亦強之由知古強我  
幸之在者神之者おかり法如之儀大お申  
在り了古強之由知古強之由知古強之由知古強  
付事之由知古強之由知古強之由知古強之由知古強  
ゆり了捕之事方也劫定なりしゆり了お強  
并之掛りてお強後之ゆり了是亦強劫定

たまひにうぢやうたまひに捕遠くふら不若也  
材及人夫と見申ゆり了申之由知古強之由知古強  
振つて申之由知古強之由知古強之由知古強之由知古強  
事、ゆり了村之巨細お礼申出ゆり了好は道  
申道之由知古強之由知古強之由知古強之由知古強  
おんは日方不第之目も怪申之由知古強之由知古強  
る捕ゆり了不引居高之儀之由知古強之由知古強  
形ハ怪申之由知古強之由知古強之由知古強之由知古強  
申之由知古強之由知古強之由知古強之由知古強  
其之由知古強之由知古強之由知古強之由知古強



此勅定なるゆゑに申す事は、  
より忠に此勅定なるゆゑに申す事  
右の如く申す事

九月

一日

帝 猶同

勅使

後常山七郎

院使

森 作徳守

女院使

大岡 伊徳守

大官使

細川 和泉守

代 京極能忠守

毛利石見守

右の如く申す事、  
仰付る事、  
法皇御

法皇御

法皇御

右の如く申す事

一日 松平越後守

中藏

右京大夫

左近将

一日 今日 旗本上野村



六 日 日 六 六 五 四 五 六 五 日  
 版塚半十郎  
 松山友之助  
 富永飛之助  
 阿部忠兵衛  
 加藤鉄五郎  
 之洞維蔵  
 長谷川政八郎  
 赤坂友之六  
 漢者若之丞  
 新見大物次  
 浪野大守

日 五 六 六 日 日 六 五 之 日  
 市川大隅守  
 坂部忠房  
 福村小吉  
 高木友京  
 角南玄水正  
 松涛求三助  
 窪田友近  
 豊源七六郎  
 榎名深右衛  
 林右衛門  
 大河内十次郎



五 河内八左衛門  
 六 藤合郷八  
 七 和田子左衛門  
 八 松田七郎左衛門  
 九 松平傳中守  
 十 多賀久左衛門  
 十一 宅間守城  
 十二 松柱左衛門  
 十三 赤坂左衛門  
 十四 藤方助左衛門  
 十五 宅惣左衛門

一 國十一  
 二 依系三左衛門  
 三 津津市郎  
 四 於合平五左衛門

羽目間

日光御馬代

一 合五枚 作り御馬代

二 合五枚時辰 大友因幡守

右日光御馬代御帳

右因幡守御帳出立御進献出門渡御帳

茅草間



時服之羽織

酒井越前守

右日光山系礼寺より御帳

右近江守中出列在御帳書海

一回十日 松平おろき守家督之付出招請之在在

出紙之成り

之殿防殿

大和守殿

丹後守殿

越前守殿

一 松平右衛門守殿之御帳也 城前出立之成り

別出也 城之近出用御帳下出入成り之在在

急出御帳之出揚ふ成り之出退也

一回十日

時後拾

松平右衛門守

右第拾番八幡社並徳寺社出修儀也之付

仕立也

右用防守殿之御帳也

一回十七日 紅葉山 沖宮惣 沖雲屋下之御帳

前出為 成り之御帳也 還御

一回十八日

御使松平用防守

紀伊中納言殿

日 日

水戸宰相殿

右の御帳也



御座間

御座間  
加判之列

之御座間老中  
久世大和守

連判之列に  
若君相の御座

之御座間  
鳥居丹波守

御座中核に  
御座用之御座

之御座間  
水野出羽守

御座間  
御座間

御座間  
御座間

之御座間  
本田備後守

御座間  
御座間

之御座間  
井伊之御座

御座間  
御座間

之御座間  
稲妻越中守

右之御座  
御座間

御用之御座

河部能忠守  
鳥居丹波守

井伊之御座  
井伊之御座

御座間

阿部能忠守  
阿部能忠守

井伊之御座  
井伊之御座

御座間  
御座間

右之御座  
御座間

一  
目十九日

若君相之御座  
御座間



捨間

松平左衛門督家来

浪之捨取時辰之取

惣七奉行  
二所及又云清

右相列右端是八幡官英法寺主社由修儀法寺傳

此用お知中分

浪之捨取時辰之取

副奉行  
正濃部 奎

右同

日

場和奉行

浪之捨取時辰之取

令井次右衛門  
井上新助  
安房清侯  
大橋五右衛門

右同

黒田守之助家来

浪之捨取時辰之取

吉田 一 希

副奉行

浪之捨取時辰之取

木村角左衛門  
田中 居  
一 牧 四郎左衛門

右同

日

場和奉行

浪之捨取時辰之取

梶原源右衛門  
是中丈左衛門  
二 橋次郎左衛門

右同



右周防中殿法皇御所  
一回廿一日

山右筆新屋編類

山右筆法方

今武板時辰二ツ

武板定

武板市之進

市野茂筆

右之別遊山 所宮出修復の所用兵職小舟

右周防中殿法皇御所

躰留間

出動定以修復方路取並

留安公九事

今武板時

右同日

右在國人所御所

回席

小菅法方取役

牧 志九事

今武板

右同日

右在江守殿所御所

一回廿二日 所之御所 雜目首筋に就為成

一回廿三日

藏始法方為九 所引後以後 所縁女柳と守標

所順之儀

但 廿三日一ツ橋より 所中九一はのみ 亦五日ありはのみ

持姫君柳

所縁女柳

今中



出部屋換

出部屋換

右之屋をうとわお觸

九月

芝草間

松平伊豫守

安房若尾守

右之屋をうとわお觸

右之屋をうとわお觸

出部屋換

同日

上使小野備守

松平右京左衛門

味方漬鯛一桶

右之病氣を

同日右京左衛門卒去付物も今亦六日より

廿八日とて停心之事 但重厚にや

同日廿七日

上使 備守

松平貞濃守

味方漬鯛

右京左衛門卒去付

右京 上使

出使用人

同日 人

右京

同日廿九日



九月廿九日  
浪百枚

沖使前田守至也

日光山跡

志以  
上使は老し

九月廿九日為丸奥法能明細書

色之在以前  
本号之在以前  
猪子之在以前

鼠山

秩流

長収

正女

長三

宗女

平所

盛塚

同

福の神

宗久

何と 宗久

日未久勢

色之在以前  
日之在以前

敷盛

中以前

久勝

宗秀

左橋

盛収

同

色之在以前

子壽

流のり

七所集

長二

お獲書

盛塚

宗梅

系筑

法花

喜宗

天鼓

揚之助

宗久

久宗

上総女

小集

同

宗久

能書



不安之度既

吉宗

徳市 正隆

立田

長悦 久務

但馬守

八勢

回

薩麻守

玄久

船取 吉宗

之井寺

長悦 西麻

久業 越中守

能方 正隆

回

女新大馬  
子方由以  
色洗之坐  
川  
川  
川  
川  
川

馬帽子抄

七郎左衛門 兼久

立三意

八勢

回

附祝云 子林樂

正隆 久勢 吉宗







石調之形大中一平一乃を志つて之を以て急な  
者人未付至平の事等用は仕を成とおぼ  
万事未付居波方位しを急は 信付

大徳の巻子

春日馬平太

養父大徳の前後子調之候仕付右隠居  
作付永く押込至平は信波の事——  
候はせとお遠る平太は節至平也

右松平用防教は信波の秋自付久松筑お  
町奉行牧野大陽も出自付信波の庫右急評定  
所におおく牧野大陽中候

九月

一 九月晦日未付之り新吉原番中に出立なり  
武町社焼怪家人ともいし沙汰なり



濱渡海養々七指八

天明元年五年

一十月廿日川並々川礼々々

川礼同

宗性巡遊歌

尻及上川崎

表川下銀守

川渡渡々川礼

島居丹波守

川並々川礼

月人

川並々川礼  
川並々川礼  
川並々川礼

水野出好守

井伊玄祐守

川側原

川和坊川礼

福系越中守



芙蓉間

此中位極重

令孫投

右尾長上使

藤川下總守

右中衛中少輔

出羽守

乙家元

出所

院使

一月二日

乙家元

出所

院使

乙巳刻

出所

院使

女院使

新女院使

大官使

此對款

勅使

油小路前大納言

久我大納言

難波前大納言

鳥丸中納言

冷泉前大納言

日野宰相

院使

女院使

新女院使

大官使

年表

公了

仙洞

御方目録

御方目録



女院

新女院

大宮

其人之教

其人之教

棟表

其人之教

仙洞

二程

女院

新女院

大宮

二程

年

右の目録

迎駕准后及使

小小路

九条抄

胡小式部

高橋

勘解由

一条

是本甲

二条

西村出雲守

聖德太子

富坊法

新女院

栢田大

其人之教



東方目錄  
十帖一卷

右所目録

東方目錄  
卷之六

日録  
其為之

免海院使者

中為大和守

白為内侍

自分之長札

油小路前大納言

久我大納言

難波前大納言

為丸中納言

冷泉前中納言

日升宰相

五宝堂下之長札

九条權後使者

朝山式部權左衛門

棟養門代管院

冷泉前中納言

日升宰相

東方目錄

右所目録

東方目錄  
卷之六

白書院板録

横泉  
乃使者

長尾治男





伊波赤田伊守

勅使

院使

女院使

伊波赤田伊守

新女院使

大宮使

日向

伊波赤田伊守

一 日向 伊波赤田伊守 城地地乞 伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

為

面幕

千歳

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守

八幡

伊波赤田伊守

伊波赤田伊守



源政七変

茂右の

俊也俊也

幼之幼之

勤操

信右の

若女若女

若女若女  
若女若女  
中村中村

新田

合合

建建  
新新  
日日

六六

又又

中入中入

平平  
矢矢

舍利舍利

久久

二二

八八

同

幼幼  
幼幼

祝云

又又  
吳吳

平平  
吳吳

二二  
半半

一一  
志志

一月一月  
日日  
夜夜

能能  
能能

院院

油油  
久久



津波寺大納言

津波寺大納言

津波寺大納言

津波寺大納言

津波寺大納言

津波寺大納言

津波寺大納言

津波寺大納言

日野 宰相

油小路寺大納言

久我大納言

藤波寺大納言

鳥丸中納言

冷泉寺中納言

右中納言

柳間

峯上使君

十一人

寺人

寺人

地下人

寺人

寺人

一月八日於吹上天的上後有

村名姓名

也將延園野傳中守延



●●● 产田之篇  
●●● 若林荒之  
●●● 久保田新之  
●●● 久保玄蕃守之  
●●● 久保涉之  
●●● 产田之  
●●● 石河之  
●●● 麦川之  
●●● 浅井 大守  
●●● 松平 庄九郎  
●●● 饭塚 为

松平 志摩守之  
●●● 松平 之  
●●● 松平 常力  
●●● 近夜并一市  
仙石 通之  
●●● 杉原 庄九郎  
●●● 内 友 源也  
●●● 夏目 庄九郎  
石河 守之  
●●● 若根 集之  
●●● 井上 守之



石河志天帝  
免世後矣此肥子守也

小泉常力

根子常力

酒野紀伊守也

二浦志天帝

核井隼人

清津山藏守也

二枝常力

阿部夜四帝

合田之水也

佐藤市左衛門

大是城之也

半人田中三帝在博也

本部康也

是田德天帝

酒井仁之帝

口松平老翁也

二浦右膳

岩次内藏也

八帝

日武夜夜集也



○ ○ ○ 沃井文書

○ ○ ○ 沙木叔馬

○ ○ ○ 竹本權之助

○ ○ ○ 土岐屋

○ ○ ○ 飯塚市左衛門

○ ○ ○ 島田吉十郎

○ ○ ○ 飯繼屋

○ ○ ○ 飯井平三郎

○ ○ ○ 飯田又左衛門

○ ○ ○ 山本珠之助

○ ○ ○ 橋井嘉八郎

○ ○ ○ 三枝左衛門

○ ○ ○ 幸田源之助

○ ○ ○ 大田幸八郎

○ ○ ○ 久保伊三郎

○ ○ ○ 加藤權左衛門

○ ○ ○ 前田孫三郎

○ ○ ○ 佐久川久太郎

○ ○ ○ 西村金吾

○ ○ ○ 吉田安之助

○ ○ ○ 加藤乙八郎



日輪白源大布

○内後新十布

○根来源十布

日池田源理

○向井繁之布

○白坂彦次布

一 日十四日坊と寺

文照院様 所置の布の寸法は、成

九寸四寸五分 還御

一 日十六日大寺町 成

為君様 成

一 日十六日 羽日間

子家

由三上佐濃守

代り 武田吉盛守

右 康春君と 信安が布は、成

信安が布は、成

一 日十八日 野島 六寸四寸五分 成

一 日十九日

上使 加刺草守

尾張中將殿

右の布は、成

一 日十九日

芙蓉間

信安が布



町被四

保田豊守

右西の方より... 側方より... 勘也守

小普庵奉行

岩中内膳心

合意取  
町被取

右門内

右門内申出列を拜取

申出列を拜取

中普庵奉行

二河口雲八郎

伴 勘七

合意取宛

小普庵奉行

右江津帯八郎

右門内

右門内申出列を拜取

芙蓉岡

中普庵奉行

河野佐清守

合意取

右門内申出列を拜取

中普庵奉行

右門内申出列を拜取

一日... 今... 勘也守

成務村

上院

門内



氏名筆跡所綴紙

時披一

小笠原正吉書

石取丸下於上子丸勝村

上後古勅為長信指南信作序

右大和守辰沙初在源氏

源氏一問

全致致宛

橋山孫十郎

淺野大學

野間為三郎

山源三郎

之宅惠九郎

月夜之三郎

宅乃孫三郎

宅乃伊城

中田守三郎

阿部長右衛門

源氏長右衛門

辰子勅右衛門

胡比系舍人

多賀之三郎

源氏三郎

福村小笠原







右君様  
二程一石

丹波守  
山月人

右君様  
二程一石

丹波守  
從姫山方

右君様  
二程一石

丹波守  
山月人

右山月子山月子  
二程一石

源濁間

尾張大納言

二程一石  
卷島二程  
二程一石

下條庄右衛門  
尾張中將  
林又吉

一  
山月四日

右山月子山月子  
二程一石

徳川大納言

深賀井子次郎

芙蓉間

大坂中城

合之子

稻垣長門守

右大坂中城  
山月子山月子  
二程一石

山右衛門

元方山月

町林式

長目長之



口口

拂子川戸敷

上野原三布

石

種原

川用

石原中川列是古和古夜七 仁返若年身元信流

拜飲

口序

元方川戸敷

境野六左衛門

長谷川右衛門

小村之左衛門

内藤半左衛門

拂子川戸敷

口口

口口

口口

元方川戸敷

山中三右衛門

菊池元三右衛門

橋井元三右衛門

佐々木元三右衛門

太田元三右衛門

口口



非之校先

佛子正納戸

長井 三斗  
中村 六郎三郎  
深津 茂乃門  
清野 八郎右  
石野 与左門  
西尾 右四郎  
石野 七左衛門  
朝比奈 左七郎  
小飲 清之助  
松 京大右

石口口

朝籠 七左衛門

ふたれり及後はもなす

一 月廿八日

西元間

所加冠後

井伊 掃部頭

はり後後

松平 肥後守

石口口

系君権は元後

仁村

法皇書院満

若君権は元後  
法皇書院の先と旨

井伊 掃部頭



若君麻也之披古所  
系初也名代

松平侯波守

系初也松平侯波守名係  
之也名

中條山城守

若君麻也之披古所  
系初也名代

戸田忠守

右通了之江竹角也中出列大和名友之江  
一月十九日

时披四

中留名  
依田豊守

合敷时披二

小普彦奉行

若本内膳正

时披三

九月十日  
九毛和泉守

右奥向也普彦也用也了也初也守

右也中出列名好飲

月席

时披三

依田忠守

合敷

若本内膳正

右口也別段

右口也

中右角初也御敷

中廣也

合敷

大塚玄九守

二河口雲八守



全三枚宛

小普達方

中村久多書

清久又八席

月夜九十席

右門口

右大和守及中書及屏風

日席

三河口雲八席

中村久多書

月夜九十席

津中夜宛

右門口列後

右門口

一十月四日云家元此地老く法徳の細書

面装持

三書度

千歳

仁右衛門の子  
是向七右衛門

親世書  
仁右衛門の子  
梅若六席

色梅の書

養老書

仁右衛門の子  
以村丁なり

六右衛門  
大右衛門七席

九席夜席  
中右衛門

新九席  
此書書

左右  
此書

同

仁右衛門の子  
是村茂右衛門

八樓席

須火席

仁右衛門の子

志と大右衛門右衛門

藤松枝小多書

有て人書若八三席



孫改 七支

茂右衛門 儀物

七支

叔様

傳右衛門

十右川右衛門  
左近右衛門  
中村平右衛門

飛田 合意

新  
日

六支

又六支

同

門中入

舞脚

大務

了  
了

合利 承之

久右衛門

二支

熊八

乃

仁右衛門

祝言

又  
吳服

虎  
半九

三

志

一月十八日西九

竹生

七

長

盛

同

正階



三市柱

春景

久志筑

兼平 新撰

久撰

宗秀 後撰

沙悦

同

不勝五

心階

志雲

志筑

六浦

之撰心

栄久

平房守

元九市

同

凡盗人

志筑

志雲

志雲

子方左衛門

永年友

後撰

七市

久撰

久栄

若棟守

定之丞 盛隆

同

志乃掌

志雲

志筑

久勢 志筑

甚信 二市

七市

盛隆 上撰

筑後守 徳宅守

同

神子左衛門

葵上

後撰

伊勢守 栄久

久栄 但馬守

小左衛門 加賀守

同

志雲



源七梅若六帝  
皇太后  
新神  
法上  
久務  
久務  
八宗女

同  
附祝云 千秋樂  
久務

一月九日百法中九法修經

并是冬日秋修  
天女 宝尊 三帝

九世戸  
万世  
九帝  
新帝  
修經系  
法之帝  
角持家之帝

今系 仁德  
今系 皇村殿之

已  
孝天  
今系  
劫之帝

同  
法之  
之好并書

并筒  
新之  
又六帝  
同  
矢田江帝

我朝皇門下  
子方  
皇朝  
三月



七騎落 七丈

八丈

物布

小八布

三光 中村 理 彦  
口 彦 田 長 十 布  
日 彦 虎 彦 彦

同

彦 彦 彦

松枝小三布

三下

彦 彦 彦  
彦 彦 彦

二揚 又三布

彦彦

中三布

又三布

同

彦 彦 彦

号中物八布

園盗人

小八布

彦 彦 彦  
彦 彦 彦  
彦 彦 彦  
彦 彦 彦  
彦 彦 彦  
彦 彦 彦  
彦 彦 彦

寺遠京

二十布  
彦彦  
山彦彦

七五布

彦彦

同

彦 彦 彦

彦彦彦彦彦

融

八五布

六五布

三六布

彦彦彦

同

彦 彦 彦

中村平彦



十月下旬松平房長と申へし余も亦連中へて是處  
を去るべしとの行書あり石山へもあつたなり此の供の  
者一幸しれりれりつりつりひよ入らと申されしを  
世談者も忠告して下を是處の石山にのほり各  
は名にしよとて信するかの世の事いふははるの東敵  
のいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
すしはるの世の事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事  
下なるにれりれりれりれりれりれりれりれりれり  
わいしよとて信するかの世の事いふははるの東敵  
わいしよとて信するかの世の事いふははるの東敵  
わいしよとて信するかの世の事いふははるの東敵

ふりまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
一 十月初兩皇子御縁の位を益職の位に切替ふる由  
ち内出給候と申由

祥世

女母

一 口比小日向の山門に義と云者病死  
和しきやほのまの心にかり祿  
とていひつらうの月夜らんさ  
わいしよとて信するかの世の事いふははるの東敵  
わいしよとて信するかの世の事いふははるの東敵  
わいしよとて信するかの世の事いふははるの東敵  
地よりいふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事



一 杉平右衛門大進殿九ノリナ音 中城より実を致死  
るふか相奇

相師分より一日たりぬ右京殿ナレシ  
くしあんの厚の口より

是ハ日蓮上人のりつ三日鎌倉二厚の口より  
中城より云々用て云々

一 十月四日 夜姫様御のりつ 二ノ丸より入  
薩摩守殿 体目之りつ由

大正相奇

よあつたれつあの下りけ成者とせけ  
聲や此毒のりつありまし

○お果星のりつ

ケイハク星	ツカニ星	三ニモツ星
エニシヤニ星	シクニリ星	キナカ星
コニイニ星		

右七星は信守りしれが立身出世教り何りし  
しつしつ但て文者ハ知槍の者ハ能知りあり  
是ハ田舎之殿の厚え入りし紋不七星ニ

一 十月九日 初宮遊進年十月の月宮降半降友に  
ちりつりつ子繁ハ白一あふの言と寛裕  
初宮ありしハ柳のありしり 磯橋  
孫ハ十月宮の美つきいとの 川氏







表向より中目付元之へりしりし由申事  
不森四人つゝは致しよ  
十月九日夜津一宮谷内夜宿より大子屋敷  
よりしりし妙境しり

一 十月廿日の上りりし道渡系記より完帳有り

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

天明元 辛丑年

一 十一月八日抄書付出

来月二日

若君様へ 湯名可云 進首云 作事

芙蓉間

西丸中苗守兵衛様へ御書付

湯旗奉行

永井瓶示守

西丸湯苗守兵

奥田山崎守

橋本河波守

神尾若按守

牧野長門守

時服三完

右西丸へ奥向首折御書付



右中將中將列能洋儀

一 同十二日未下川筋六時出供橋高為 成水

一 同十八日月並湯禮有之

尾張大納言殿使者

從者赤産男子出生付

上野内膳

右中將 右達從

右同人使者

右中將殿 上使多從

野濟三節

右中將殿 上使多從

右同人使者

右中將殿 上使多從

上使

阿部肥前

右中將殿 上使多從

右同人使者

右中將殿 上使多從

右友源左衛門

羽目間

高家

全指入牧

羽織

由良信濃守

時服三

右京都 湯使出所

右大和守殿 湯使出所

湯側出用人湯室中丞

右任侍從

水野出將守

一 正十六日

湯右筆 湯使出所



湯書院番小塔河内守組

松平仁右衛門

西丸湯書院番小塔下總守組

井戸右衛門

時服之宛

新湯番飯田徳登守組

系原勘之湯

大湯番永井信濃守組

守徳守書

右十七日於山書院基將基有之

河成之節鳥射苗比之甘

右大和守殿山書院基將基有之

一 同十七日於山書院基將基有之

香車落

倭友宗平

膳

大橋宗順

林門入

井一同達

先番中押膳

先番冒膳

烈久

坂口仙徳

安井仙和

大橋宗英

音

井上同頼

大橋宗步

中園防頼

林門悦

倭友步

頼

一 同十九日

柳間

京都樂人



一 同十五日

辻 右京

名代辻推樂

窪 甲斐

名代上越後

上 越後

友 須濃

辻 推樂

浪振技  
時服式 宛

右日光樂人の書傳之筆の付出候

右大和守殿出候御座候

同本月水戸殿出候中出遊之付鳴物係止今日

二日之事一普請之次第

一 同本月 湯使水節左近將監

浪二振技

水戸宰相殿

右湯簾中遊之付為出香奠之次第

一 同本月 芙蓉台間

高承

六角伊豫守

日光湯宮の御名代

同

湯同判

前田伊豆守

若君棟 御名代

同代

横瀬駿河守

右 若君棟の御名代進出候御座候間可致用意旨

至及殿後出候御座候

一 同本月 山吹間







右同判

父勘六郎水領之押込

久保勘六郎娘

右

右

久保勘六郎

病死見立六郎

清水小普請組

倉橋玄右衛門支配

元作後取人

塚田富六郎

秩父守存令之出得之死罷

揚屋

同 元松平志摩守組

江戸拂

鈴木辰六郎

同 永井監物支配

始屋源之助取人

永井九右衛門  
松平勘次郎

同 宮城久三郎支配

八王取人

植村平右衛門

久保勘六郎取人

前田市右衛門  
大澤勘右衛門

同 水野大膳支配

鈴木辰六郎取人

金森勘六郎

右之通右衛門

一 十二月朔日月並湯禮有之

湯屋間

侍従湯禮

卷物  
全馬代

水野出母守



今日 湯白書院

御式振抱

全馬代

東督湯禮

松平右京免

松平右京免

神保左左馬

天羽孫八

田中助之丞

湯白書院縁類

時服振

右比叙小諸堂社由於後由手傳由用由勅由付

松平遠江守

松平龜丸

木下千膳

同判宛

右同判

右湯堂中比列在洋傾

一 同日今日

着君採湯名水進比付為由於儀殿中儀合之布衣  
以之而之口於席之由吸物由酒等々

土圭間

時服回

林 玉助

右湯名水考由比付

桑湯右掌組頭

同式

上村深之郎

右湯名水考由比付

右周防守殿中後由着奉考成侍能



同日

若君採<sub>レ</sub>湯名<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>甘<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>儀<sub>レ</sub>惣<sub>レ</sub>出仕有<sub>レ</sub>

若君採<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>津<sub>レ</sub>採<sub>レ</sub>湯名<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>首<sub>レ</sub>周<sub>レ</sub>防<sub>レ</sub>守<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>海<sub>レ</sub>

同日 羽目間

全式牧

高取

六角伊豫守

時腹式

右 若君採<sub>レ</sub>湯名<sub>レ</sub>鹹<sub>レ</sub>甘<sub>レ</sub>日光

湯宮<sub>レ</sub>湯名<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>海

右周防守及<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>庄<sub>レ</sub>洋<sub>レ</sub>領

湯庄間

高取

市田伊豆守

右日光 湯宮<sub>レ</sub>

若君採<sub>レ</sub>湯名<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>甘<sub>レ</sub>湯<sub>レ</sub>目<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>但<sub>レ</sub>西<sub>レ</sub>元<sub>レ</sub>高<sub>レ</sub>洋<sub>レ</sub>領<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>

同席

徳川宮内禰殿

徳川良部禰殿

任<sub>レ</sub>宰<sub>レ</sub>相

右旅 湯<sub>レ</sub>市<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>海

芙蓉間

紀伊殿東亮

水野若馬守

右<sub>レ</sub>松<sub>レ</sub>平<sub>レ</sub>左<sub>レ</sub>近<sub>レ</sub>將<sub>レ</sub>監<sub>レ</sub>娘<sub>レ</sub>前<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>納<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>養<sub>レ</sub>女<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>首<sub>レ</sub>防<sub>レ</sub>守<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>作<sub>レ</sub>海<sub>レ</sub>

一 同<sub>レ</sub>首<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>松<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>筋<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>湯<sub>レ</sub>供<sub>レ</sub>枡<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>

成



一 同七日

漸渴間

全武校

時辰式

右湯所

午周防

林門入

井上因頼

根根校宛

安井仙知

伴友宗市

大橋宗頼

大橋宗秀

右同判

烈元

伴友者秀

井上因達

林門悦

坂口仙徳

大橋宗英

右周防守辰湯中屋洋頼

湯中屋洋頼

湯中屋組水師河内守組

時辰三

右河甚大節

右左六目小松川筋

湯成之節鳥射箇中付

右周防守辰湯中屋洋頼

一 同十日

芙蓉間

全三子石

牧野備秀守

右左打濱頃分損元甘頼通洋備云

作甘山音

比列在周防守辰中後

一 同十二日

檜間



松平遠江守家来

惣奉行

安孫子左衛門

右江州小幡請堂社中使役所用取勘比付

添奉行

友田新次右衛門  
田造左門

場所奉行

下見橋士  
中山村左衛門

苗奉行

市川保助

木下子膳家来

惣奉行

長澤勘助

添奉行

小山左衛門  
今庄九郎左衛門

場所奉行

堀 九郎作  
井上長右衛門

浪三振牧

時辰三

羽織

浪三振牧

時辰三

羽織

右同判

同判

同判

右同判

浪三振牧

時辰三

羽織

右同判

浪三振牧

同式

羽織

右同判

同振牧

羽織

羽織

右同判



松平龜九家来

惣奉行

佐分利齋屋

浪二振牧  
時股二  
羽織

右同判

添奉行

佐若平馬

同式振牧  
同式  
羽織

右同判

場酌奉行

三村孫之清

同振牧  
同式  
羽織

右同判

中山平左馬

松原牧左

右出將守辰山平左勝洋領

一 同十八日月並湯禮有

湯禮間

任官之由禮

徳川宮内少殿

湯左刀一振

湯馬代之振

同

徳川氏部少殿

右同判

右之湯對顔

主殿次子

田沼播磨守

湯奏者番云 作甘

右旅 湯前云 作甘

一 同十七日 伊集山 湯成雨天二甘湯延川



一 湯名代 大和守後

一 同十八日由書付書

松平筑前守卒之付

若君様由實方伯父由半藏之由息腹之為請

由息之目數由之由付昨日一日由遠慮之為

一 同十九日由系心

湯名代 湯靈屋に大平打之由是為

成

四折式寸早 還御

同晦日

上使松平和泉守

一 同十八日由書付書

京極又八

右之松平筑前守卒之付由香奠之由是為

一 同廿七日

湯名代筆跡屋塚頼

全志校

之方湯村戸頼

時辰式

其目長二節

右設所由益節之儀其細波是骨柄抄勅書

同組頭

浪六校

境野六左衛門

長谷川友三郎

木村久左衛門

内友半藏

右同判

右由書中由列在若年寄所侍在洋頼



一 同廿八日早嘗月並沛禮有之

出勅定奉引

時服二

松本保夏守

右三刻夫此稿稿是八幡云并諸堂社山門

此後復江戶表与取扱少甘

右此卷中此列在序後

此右筆部尾縁款

此勅定組頭

若林市左馬

全三枚

右同判

全貳枚

右同判

全壹枚

右同判

廣瀬保八郎

德本六左馬

市野茂左馬

谷田久左馬

水野久右馬

廣原六郎左馬

根六枚

右同判

根七枚

右同判別紙

藤本六左馬



右由書中比列能洋紙

一 當月二日 義君様に 比名云進比節比親式

么方様に 比刀俣介園助全武百枚

○ 比吸物比酒平下席

義君様に 比脇元九利全武百枚

同 芙蓉く間中中

么方様に 比由比日吉守全指枚

高次 儀成 比奏者

義君様に 比馬代美全武枚

大坂比坂番 三番頭

比く通云進く

芙蓉く間比役人

中く間 比役人

一 十月十六日 近年之云く大雪降ん

一 同十九日 昼近小日向後戸坂上組屋敷よりあつて比節

か後の火より出火比新焼ん

當十月廿一日 吹屋町新万屋におとく元後改名乃成

葵お儀く比徳のさめ洋而比入比又山間朝四時に

晴雨比光成業比並比松備比市市

市松政

松平小十郎

比つられく比いさきこと年行りくつて比安否様を

比と比治り比おんよハ志りすと是や比まよハ似

と業より比建り幸比祐野毎のまハ久く比知建

なれハ比の成かつらよハ比の保符よ比おんや

すこやよハ比成落くとも比のうく

るいといく比おんよハ比の保符よ比おんや







はらと夜のみくよけふまの飲くらうは女

霜乃知人よ咆れぬ玉窟が

拂橋菴

連馬

人馬

まの庵子に洗母の所うも

存後

てめえ年辛且おん

鳥う汝う紫角の大き成物も汝え翅の黒も成物ふ馬く  
汝うく及甫のほを知らず市よ爾成こられうらと若う  
河を流し野よ半馬の尸と窺ふ川お食と徳乃

鳥成ぬまみゆは能く糧の某成貪る適く人あま  
れむとかなむとせしれ成成出せば物う人の成成りや  
し先愚ぢら人ようともまきけうふ人の名標のたそれ  
と違れ物う幸のには物よ貴赤たりともけの巻花けり  
ん悲はら人のう先に然野乃山よかこし病見をれ  
ともを舊の名とて平もれ鳥く伴汝う由成んま  
口痛の中よ会く書く世母の涙いと思ひしが  
こくを竹の園生の由衣の織りのともちりし又  
大己老の思くおの白きく若くしの体奇しものせ  
られ此のしとあは京行て空のめん恵と廣  
れし馬の文字誰とて欺くやま人のかみ巻の







わのよとほじ人も人と意對する時ふ合な  
はふ家よりりらうと老くふ後の病成  
知魚

あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ  
あつたてのうらなひのうらなひのうらなひ





